

エネルギー溢れる、香川県内の子どもたちが 瀬戸内の海を守るために



日本財団・瀬戸内オーシャンズXの「瀬戸内海洋ごみ削減行動促進 支援基金」第3期助成金の一環として、一般社団法人丸亀ICTクラブが行う活動のひとつである、牛島海岸清掃活動。第1回目につき、3月23日に第2回目の活動を行いました。締め切り前に申込みを打ち切るほど、予想以上に多くの申し込みがあった今回の活動には、香川県内の小中高生と保護者、スタッフの合計41名が参加。活動に前向きな子どもたちがたくさんいることにエネルギーを感じました。

世界共通のICCに基づいた、 一歩進んだごみ拾い

前回と同様にただのごみ拾いではなく、世界共通のICC(※)に基づいて、どんなごみがどれだけ流れ着いているのか、調査をしながらのクリーン活動を実施しました。漁業関連のごみも見受けられましたが、やはり一番多いのは私たちの身近にある生活ごみ。調査をしながらのごみ拾いということもあり、参加者も日頃からのごみ分別や、ポイ捨てについての考え方など、自然と“自分たちにできることは何か？”といった意見がたくさん出てきました。



※ICC=International Coastal Cleanup=国際海岸クリーンアップ



かがわ海ごみリーダーによる 海ごみ講座

清掃活動の後は、島唯一の小さな集会所にて、かがわ海ごみリーダーによる海ごみ講座。雨で冷え切って疲れていた状態でしたが、衝撃と胸が痛くなるような海の現状に、参加者たちは真剣に聞き入っていました。

海のごみが海の生き物を越える日が来ないように、私たちがのごみによって生き物の命が奪われることが無くなるように、全員の心に響いた講座でした。

参加者の声

- ・本当はこのようなゴミ拾いはするべきではない。何故なら海岸にごみを拾う必要もない(ごみが一つもない)世界が来てほしいから！（大手前高松高校2年）
- ・海岸清掃をしてみて生活用品が多かったので海を綺麗にするためには一人一人が気をつけることが海を綺麗にすることへの最大の近道なんだと思います。（香川中央高校2年）
- ・実際に目で見て海洋ごみがどれだけの量あるかを知れた。（坂出工業高校3年）
- ・ゴミを抑制することは自分や魚たちの将来を安定させるために大切だと思った。（丸亀高校1年）

デジタル庁推進、 オープンバッジの授与

牛島海岸清掃活動に加え、今回拾ったごみを分析するAIプログラミングワークショップ（第2回は4/20予定）の参加者には、世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明である、オープンバッジを授与しています。

世界では資格証明書や卒業証明書、免許証など、すでに推定1億個以上も発行されており、今後日本でも間違いなく広まるオープンバッジ。そんな最先端なデジタル証明書を、丸亀ICTクラブは参加者へ授与いたします。



こちらの記事に関するお問合せ先

一般社団法人丸亀ICTクラブ 事務局：小野
TEL：070-9257-3929
MAIL：jimukyoku@marugame-ict.org
HP：<https://marugame-ict.org/>

ICTの力でごみ問題を解決



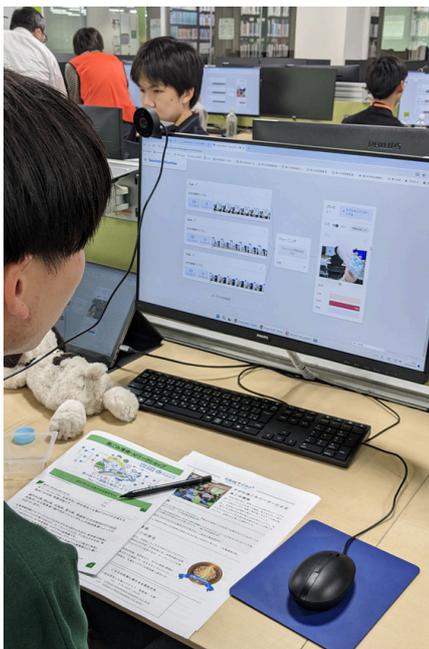
日本財団・瀬戸内オーシャンズXの「瀬戸内海洋ごみ削減行動促進 支援基金」第3期助成金の一環として、一般社団法人丸亀ICTクラブが行う活動。3月23日の牛島海岸清掃活動に続き、4月20日には香川大学幸町キャンパスにて、香川大学情報化推進統合拠点との共催で、プログラミングワークショップを開催しました。今回も多くの応募があったワークショップ。香川県内の小中高生と保護者、スタッフの合計25名が参加し、ICTの力でごみ問題解決に向けて、プログラミングを学びました。

ごみ問題について、もう一度考えてみよう

瀬戸内海のごみを無くすにはどうすれば良いでしょうか？3月の牛島海岸清掃活動にて、多くのごみを回収し、そこで参加者も感じたごみの分別の大変さ。この大量のごみの分別、いつまでも人の手でやっても仕方ありません。じゃあごみ拾い分別ロボットをつくらう！…でもロボットなんて、そんな簡単につくれるものでもありません。

今回のワークショップでは、はじめの一歩として、ごみを分類するAIをつくってみました。

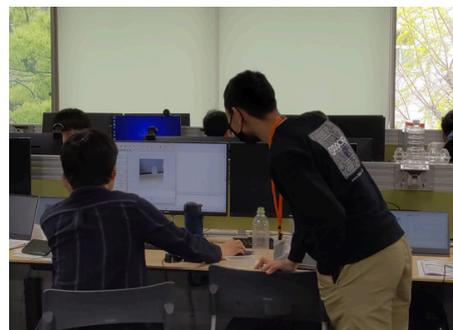




参加者の集中力は無限大∞

今回のメインは、クラウドでAIの頭脳であるモデルをつくること。カメラで様々な角度からごみを撮影し、形を学習させます。頭脳の精度が良いほど、ごみの認識率は上がります。認識率を上げるには、どうすれば？参加者たちは自分たちで考え、それぞれが工夫を凝らしていました。

休憩時間も休憩なし！参加者の集中力には驚かされます。参加者同士で情報を共有し、たくさんの発見があったようです。学校とは違った経験ができた1日だったのではないのでしょうか。



参加者の声

画像判定の技術が学ぶことができよかった。

【協和中学校1年】

AIを使うと効率的に（ごみ）回収できると感じ、AIについて詳しく知ることができて良かった。

【香川中央高等学校3年】

自分で工夫して性能を上げようとするのができて楽しかった。

【高松北高校3年】

オープンバッジをもらうために参加した。あまりふれないプログラミングをすることができて良かった。

【香東中学校2年】



デジタル庁推進、 オープンバッジの授与

牛島海岸清掃活動と、プログラミングワークショップ両方の参加者には、世界共通の技術標準規格に沿って発行されるデジタル証明である、オープンバッジを授与しています。

世界では資格証明書や卒業証明書、免許証など、すでに推定1億個以上も発行されており、今後日本でも間違いなく広まるオープンバッジ。そんな最先端なデジタル証明書を、丸亀ICTクラブは参加者へ授与いたします。

こちらの記事に関するお問合せ先

一般社団法人丸亀ICTクラブ 事務局：小野

TEL：070-9257-3929

MAIL：jimukyoku@marugame-ict.org

HP：<https://marugame-ict.org/>